

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	行っている	理念を各階の事務所扉に貼り、いつでも職員達がそれを目にし、実践に向けて各職員が役割を持って行動できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年行事の参加等行っている。(例)夏祭り・地域の運動会等	町内会に入り、地域の行事に参加している。施設側から地域へ声かけすることで、地域の行事等に対応してもらえる。	星の家中央で企画している行事等に地域の方に参加してもらい、もっと地域交流が深まることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行っている(運営推進会議)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2~3ヶ月に1回行い、事前アンケートを実施したり、GHの報告・意見交換を行ったりしている。	定期的に、運営推進会議を行っている。その際、参加された方々から出た要望等は、現場に持ち帰り、職員同士で話し合い、サービスに生かす努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行っている。(運営推進会議に包括の職員さんにも参加をお願いしている)	統括マネージャーを通じて、市町村と連携を図ったり、地域包括支援センターの方と運営推進会議を通じて交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行っている(研修の参加)	身体拘束についての研修はあまり実施されていない様ですが、現場においてその都度、職員同士で身体拘束について自主的に考え、実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行っている(研修の参加・勉強会)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者には成年後見人制度を利用されている方もあり必要に応じて活用させていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族との話し合いの場を設け十分に説明をし、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でのご家族との意見交換、日々の面会時に行っている。	運営推進会議や面会時を利用して、家族の方には意見や要望等について尋ねているが、運営等に関する意見や要望は多くはない。外部評価の家族アンケートを参考にして運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や報告書等で意見交換の場を設けている。	毎月1回の職員会議(管理者+参加できる職員)や業務報告書を利用して、職員の意見をくみ上げ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務条件に対応し、働きやすい職場へと繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会・職員同士の意見交換、研修の参加等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講習会や勉強会等、個々に行っている。その後報告書を作成し、提出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをした上で、本人との関わり方など、上司と相談しつつ職員全員でケアにたずさわる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との連絡を蜜にして、対応できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期でケアプランを作成し、現在の要望、長期目標等を明確にして、職員全員に目を通してもらい対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な生活を目指し、一緒に手伝っていただけることは職員と一緒にいき、共に何かをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を把握してもらうなど、蜜に連絡を取るようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで本人が使っていたものを居室において、ご家族や知人の方も協力していただけるよう対応している。	馴染みの方が来られた時には、お茶を出したりして、ゆっくりと寛げるような配慮をしている。また、誕生日には自宅や自宅近くまで、ドライブに出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が一緒の空間にいる時間を設け、自然にお互いがコミュニケーションを取れるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの性格や要望を把握しながら、その人らしい生活を送ってもらえるよう心掛けている。	利用者本人の情報をキーパーソンや家族の方から聞き出し、その人らしく生活出来るようにサポートしている。また、日常会話の中から情報を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モニタリング等で把握をしたり、以前から使用しているものを居室に置き、その人にあった生活リズムを作るよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人にあったレクリエーションやお手伝いをしてもらい、日々を過ごしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	様々な角度からニーズを見つけ計画を立てている。	職員や家族からの意見や要望を取りまとめ、3ヶ月～6ヶ月の間で計画を見直し、利用者個々に合ったケアプランを作成している。各階の管理者が管理し、モニタリングに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートを作成し、使用している。個人記録にもその日の様子を記載している。個別のカンファレンスをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の理解と協力が大切なので、ご家族に情報をお伝えし、理解と協力を得てケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園を散歩して、季節の移り変わりを肌で感じてもらったり、一緒に買い物へいくなど、気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりにあった医療との連携を取れるよう個人の状態を把握して対応している。	総合病院と提携し、2週間に1回、往診に来てもらっている。また、利用者個々の希望により、日々のかかりつけ医は職員が受診対応している。緊急時の体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の協力を得て入退院がスムーズにでき、ソーシャルワーカーとの連絡を取りあうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期においては、ご家族・病院等との連携をとるようにしている。	終末期の対応については、その都度、家族と連絡を取りながら、また、医療機関とも話し合いながら前を見据え、職員一丸となって介護に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日赤の救急法の勉強会の参加をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練をしている。	年2回、避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も実施している。	近隣住民等と協力しながら、地域を巻き込んだ避難訓練が出来ることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必ずしも丁寧な言葉遣いとはいえないが、方言でお話したり、ゆったりとした口調での声掛けなど出来ている。	利用者の方に対して、慣れ合いにならない様、さん付けで接している。また、失禁時等、さりげない声かけに徹しながらその都度対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の声に耳を傾け、意思を尊重し、声掛け確認をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の時、本人の意向を聞いたり、服を本人に選んでもらったり、お化粧品の購入をしている利用者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやお米とぎ、配膳準備等本人のできる範囲のお手伝いをしてもらっている。	食事作りが出来る人には、利用者本人の能力に応じて、手伝ってもらっている。食材は季節の物を取り入れ、彩りに工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、栄養バランスの確認、個人記録にて水分量の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けや誘導で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にリハビリパンツを使用しないよう、こまめに声掛け、トレーニングパンツ・普通パンツで対応をしている。	利用者の状況(状態)を見極めながら、早めのトイレ誘導を行っている。また、布パンツの着用を推進し、排泄の自立支援を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指導の下下剤での調整、水分補給を十分に行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限りで、利用者様に負担のないよう行っている。	2日に1回の入浴を基本とし、利用者のペースに合わせてながら対応している。また、季節によって、ゆずを入れたりしながら、入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の気持ちを尊重し、昼寝をしていただいたり、居室で過ごしていただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテ等にその方の処方箋を保管し、職員がすぐに確認できるようにしている。薬について、主治医に常に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な部分を見つけ、お手伝いや共有スペースの飾り付けなど、利用者様に合った気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に行ったり、その方の誕生日にはご家族の方と職員と一緒に食事に出たりしている。	施設前の公園や併設のデイサービスへ散歩を兼ねて遊びに行ったり、食材の買い出しに職員と一緒に出かけたりしている。また、誕生日には職員・家族と一緒に外食へ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも出来るようになっている。手紙等希望があれば対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ディスプレイやお花・食事においても季節感を取り入れている。	居心地良く生活出来るように、共用空間の温度調節は、利用者に合わせて、職員がしっかりと管理している。窓際に観葉植物を配置し、清らかな空間を演出している。日々の掃除が行き届いており、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは、その方の指定席が自然とできていて、そこに座り一人ゆったり過ごしたり、別の席に移動して他に利用者様と会話ができたりと自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族の要望に合わせている。	利用者個々の生活歴から合ったものを選び、配置しているので、その人らしさが居室に表れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の生活しやすいように、ベットの高さをかえたり、マットを変えたりと1人でも出来ることをなくさないようにしている。		